

第208回福井県原子力環境安全管理協議会 概要

原子力安全対策課

1. 日 時 令和元年10月28日（月） 15時30分～16時25分
2. 場 所 （公財）福井原子力センター 2階 研修ホール
3. 出席者 別紙のとおり
4. 議 題
 - (1) 原子力発電所周辺の環境放射能測定結果（令和元年度 第1四半期）
 - (2) 原子力発電所から排出される温排水調査結果（令和元年度 第1四半期）
 - (3) 発電所の運転・建設および廃止措置状況（令和元年8月～10月）
 - (4) 美浜・大飯・高浜発電所の安全性向上対策の状況等について
 - (5) 高速増殖原型炉「もんじゅ」について
5. 配付資料 別紙のとおり

6. 議事概要

○議題説明

(1) 原子力発電所周辺の環境放射能測定結果（令和元年度 第1四半期）

[県 原子力環境監視センター 村田 所長より説明]

(2) 原子力発電所から排出される温排水調査結果（令和元年度 第1四半期）

[県 水産試験場 石田 場長より説明]

(3) 発電所の運転・建設および廃止措置状況（令和元年8月～10月）

[県 原子力安全対策課より説明]

(平和・環境・人権センター：松永 特別幹事)

- ・環境放射能調査の結果について、毎回、核実験フォールアウトの影響と考えられると記載されているが、現在、大飯と高浜で3基が動いており、美浜と敦賀は止まっているという状況であり、本当にそうなのかと疑問視される。調査の内容と結果をもう少し詳しく書いていただくとありがたい。
- ・温排水調査について、温排水によって周辺の生物にどのような影響があるのか少し記載していただくと分かりやすいと思う。

(県：村田 原子力環境監視センター所長)

- ・空間線量の評価や積算線量の結果などから、発電所からの放射線の影響がないことを確認している。その他、発電所から放出される水についても監視しており、放射性物質の流出がないことを確認している。先ほど説明した年間のセシウム137等の降下量の推移のグラフから、福島第一原子力発電所事故の影響が一時期見られたが、過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられるレベルまで落ち着いてきていることが読み取れる。
- ・説明や資料の記載については、分かりやすい内容となるよう心掛けたい。

(県：石田 水産試験場場長)

- ・温排水の拡散については、報告書において棒グラフ（影響到達距離、拡散面積、到達推進）で示しており、高浜町内浦海域については、（過去の測定結果の範囲内であり）影響は小さいと考えている。また、おおい町大飯海域については、影響到達距離、拡散面積が（過去の測定結果の範囲の中でも）非常に小さく、影響は小さいと考えている。

(4) 美浜・大飯・高浜発電所の安全性向上対策の状況等について

[関西電力株式会社 近藤 副事業本部長]

(5) 高速増殖原型炉「もんじゅ」について

[日本原子力研究開発機構 伊藤 理事]

(平和・環境・人権センター：松永 特別幹事)

- ・関西電力にお聞きするが、金品の問題について、第三者委員会を設置して究明に当たるとのことだが、社内と関係のない人達によって究明に当たらないと、本当の究明が出来ないと思うが、どのように考えているのか。
- ・防潮ゲートについて、警報が出ない時にどのように防潮ゲートを閉めることになるのかお聞きしたい。

(関西電力：近藤 副事業本部長)

- ・最初の問題について、今回設置した第三者委員会に参加いただいている委員については、日弁連のガイドラインに基づき、当社と全く関係のない方を選定していただいている。
- ・委員が仰るように、今回の金品受領問題に関しては、関西電力と全く関係のない、本当の意味での第三者によって調査がなされるので、徹底的な調査、原因究明、それに対する再発防止対策について、今後しっかりとやっていきたい。
- ・警報が発表されない津波に関して、資料4の10ページに判断基準の例を記載している。高浜発電所には潮位計を3つ設けており、複数計器の観測潮位が10分以内に1m以上低下し、その後最低潮位から10分以内に1m以上上昇する変動があった場合には、プラントを止め、循環水ポンプを止めて取水路の防潮ゲートを閉止するという運用に変えている。既にマニュアルへの反映や訓練も実施している。

(平和・環境・人権センター：松永 特別幹事)

- ・「もんじゅ」について、順調に原子炉内からの燃料取り出しが行われ、今までの経験が十分に活かされており、敬意を表したい。しかし、経験のない職員もたくさんおり、これからどんどん経験を積んでいくことになると思うが、今後も社員、職員が安全第一でやっていただきたい。
- ・「ふげん」について、プールの中で機器の解体を行っていくとお聞きしているが、どのようにやっていくのか。

(日本原子力研究開発機構：伊藤 理事)

- ・一点目の経験のない社員については、当然、経験を積めるような形で進めている。安全第一にということで、100体の完了に一喜一憂することなく、地に足をつけてしっかりと一步一步確実に作業を進めていきたいと考えている。
- ・「ふげん」の解体については、原子炉容器の廻りの解体は、気中で行う予定である。原子炉本体については、水中でレーザーを用いてカットする方法について検討を進めているところである。

(平和・環境・人権センター：松永 特別幹事)

- ・水中でやることは分かったが、プールの中には水があり、その放射能が高くなるのではないかと。

(日本原子力研究開発機構：伊藤 理事)

- ・原子炉容器は特殊な材料であるため、レーザーでカットした際に空気中にヒュームが出る恐れがあり、これを防ぐために水中でカットするという技術を開発中である。

(平和・環境・人権センター：松永 特別幹事)

- ・放射能は関係ないのか。

(日本原子力研究開発機構：伊藤 理事)

- ・放射能は当然あり、放射線の遮蔽等も含めて、空気中に散乱しないような形で実施するために、水中でのカッティング方法を検討している。

(平和・環境・人権センター：松永 特別幹事)

- ・作業が終わった後のプールはどうするのか。

(日本原子力研究開発機構：伊藤 理事)

- ・終わったあとはプールも解体する。

(平和・環境・人権センター：松永 特別幹事)

- ・プールの水はどうするのか。

(日本原子力研究開発機構：伊藤 理事)

- ・水は除染する。

(平和・環境・人権センター：松永 特別幹事)

- ・除染して、海へ放出するということか。

(日本原子力研究開発機構：伊藤 理事)

- ・水の放射能を測定して、放出できるレベルになれば実施するが、それ以外のものは、例えばコンクリートに混ぜて保存するなど、廃棄物として処理する。

(県議会：辻 議員)

- ・関西電力原子力事業本部の副事業本部長が出席されており、先ほど今回の金品受領問題についてお詫びの発言があった。国会でも様々な質疑がなされているが、第三者委員会の報告について、明確な時期が伝わってはこない状況である。どのくらいの時期に報告書は出てくるのか。

(関西電力：近藤 副事業本部長)

- ・国民の皆様、県民の皆様ができる限り早く事の真相をお伝えする責務が私たち関西電力にある

と考えている。今回、徹底的な調査をしていくため、時代も遡り、調査する人間も広がり、調査の深さは広がっていくため、長期化する可能性があると考えている。報告時期については当社が考えることではなく、第三者委員会が考えられ、検討されることであるため回答できないことをご容赦いただきたい。

(県議会：辻 議員)

- ・しっかりとした調査を求めたいと思う。

以上